



ワクワク広がる、もりのあそびば

鳥海山木のおもちゃ美術館が、7月1日にいよいよグランドオープンを迎えました。旧体育館に広がる「もりのあそびば」では、まるで秘密基地のような遊具に子どもたちが大はしゃぎ。夢中で駆け回って歓声を上げていました。(記事2～5分)



少年将棋教室

昭和63年開講。(公社)日本将棋連盟本荘支部(鈴木信雄支部長)の会員が小・中学生を対象に将棋の楽しさを教えています。

「将棋は礼に始まり礼に終わる」相手への礼儀、尊重する気持ちを大切に

←講師(支部会員)と生徒たち。日々切磋琢磨し、将棋を楽しんでいます。

このコーナーでは、市内で活動する団体をジャンルを問わず紹介していきます。第2回は「少年将棋教室」です。



市内で活動する団体を紹介

2

(公社)日本将棋連盟の本荘支部が発足したのが昭和46年。会員の浅野有喜さん(85歳・大門)は当時から子どもたちを自宅に招き、将棋を教える子もたちが増え、浅野さんが支部長を務めていた昭和63年支部の社会奉仕活動として少年将棋教室を開講しました。

現在生徒は小学生が中心で、毎週水曜日にカダールで教室を行っています。「将棋は礼に始まり礼に終わる」を基本に、初心者には初歩や礼儀から教え、慣れてくると定跡(序盤の指し方)や詰め将棋など、段階を踏んで教えていきます。中でも浅野さんが考える4問の詰め将棋は開講以来毎回欠かさず続けていて、これまでの出題数は合計で5千近くに及びます。

そうして育まれた生徒たちは、大会でその実力を遺憾なく発揮しています。5月に開催された「文部科学大臣杯第14回小・中学生将棋団体戦」の秋田県大会では尾崎小学校Aチームとして松川絢君(6年)、草苺零生君(4年)、福田煌世君(3年)が出場し、昨年に続き見事優勝。7月26日に東京都で開催される東日本大会に出場します。大将の松川君は「将棋は負けると悔しいけど、勝つとその何倍もうれしいから頑張れる。昨年は1勝できたので今年は3勝して、決勝トーナメントに出場したい」と意気込みます。その他にも、夏休み子ども将棋大会や新春将棋大会、本市から岩手県大船渡市まで存在する連盟支部で「国道107号沿線支部交流将棋大



一手一手丁寧に教えます。

会」を毎年開催するなど、積極的に腕を競わせています。今後の目標はもっと多くの子どもに将棋の楽しさを知ってもらうこと。学校のクラブ活動など、派遣講師にも意欲を示します。「今はインターネットでも対局ができる時代だが、礼儀や相手を尊重する気持ちは直接対局して身に付くもの。ぜひ教室に足を運んでもらいたい」と話す浅野さん。教室内では真剣なまなざしで対局に臨む生徒たちが、「パチッ」と小気味よい駒の音を響かせています。



東日本大会に出場する3人。左から草苺君、松川君、福田君。

音楽でメジャーデビュー！地元とのコラボ楽曲もできました♪



大内地域出身の佐々木友和さんが今年3月、You-Yu Bounceというアコースティックユニットでメジャーデビューを果たしました。You-Yu Bounceは男女のツインボーカルとギター、ベースの4人組で、佐々木さんは男性ボーカルを務めています。

主に都内のジャズバーなどで活動し、野外の音楽イベントや福祉施設の訪問も行っているという佐々木さん。これまでは地元で音楽を届けるのに苦労しましたが、メジャーデビューのおかげでネット通販が可能になり「注文したCDが届いたよ」という知人・友人からの声がとてもうれしかったといいます。今回のアルバムには、羽後岩谷駅を思い浮かべながら歌詞を書いた曲も収録されていて「離れていても、自分の根この部分はいつも由利本荘にある。地元とのつながりを大切にしていきたい」と話します。

さらに最近では、親しい人の紹介で超神ネイガーとのコラボが実現。秋田弁たっぷりの「We are the ネイガー」という楽曲を作って提供しました。「地元で1つでも話題提供できることがうれしい。ネイガーショーなどで由利本荘の皆さんにも楽曲に親んでもらいたいし、今後も音楽を通じて地元と一緒に何かできたらいいなと思っています」と意気込みを聞かしてくれました。



You-Yu Bounce (ユーユーバウンス)のニューアルバム「MUSIC BOX」。楽しい、切ないなどいろいろなタイプの曲が詰まった1枚。



Interactive Side Story



木のぬくもりにあふれて

館内は、無料ゾーンと有料ゾーンに別れており、無料ゾーンには、軽食やドリンクを提供する「ダイニング・キッチン」や授乳室、木工室、地域の民具を展示した「ゆきぐにの民具展示室」などがあります。有料ゾーンには、おもちゃの展示室や手作りおもちゃのワークショップを開催する「おもちゃファクトリー」、子ども劇場、乳幼児とその保護者が安心して遊べる「ハイ

多世代交流の木育推進拠点
は、長谷部市長や由利本荘木育推進協会の木内芳一理事長などがくす玉を割り、ゆり保育園の園児約30人が風船を飛ばして開館を祝いました。
同美術館は、地元産の木材を使ったおもちゃや大型遊具などを配置し、子どもからお年寄りまでが木のぬくもりを感じながら楽しめる「多世代交流・木育推進拠点」として整備されました。

長年地域の方に愛され、守られ続けてきた国登録有形文化財「旧鮎川小学校」が、多世代交流の体験型ミュージアム「鳥海山木のおもちゃ美術館」として生まれ変わり、7月1日にオープンしました。
オープニングセレモニーでは、

美術館の管理運営
地元由利地域の方々为主体の「NPO法人由利本荘木育推進協会」が指定管理を行います。館内では赤いエプロンを着用したボランティアスタッフの「おもちゃ学芸員」の方々が、一緒に遊んだり、木のおもちゃの楽しみ方を教えてくれます。

ハイひろば」が設けられたほか、旧体育館が「ちようかいタワー」や5千個の木のどんぐりプールやツリーハウス、26のおもちゃの小部屋がある「もりのあそびば」に整備され、1日中木に触れながら遊べる施設となっています。

鳥海山
木のおもちゃ美術館
CHOKAISAN WOODEN TOY MUSEUM
オープン!!



問い合わせ先
教育委員会生涯学習課
☎32-1332
鳥海山木のおもちゃ美術館
☎74-9070

木のおもちゃ列車に乗って

美術館へ出かけよう！



木のおもちゃ列車(上)と車内で遊ぶ子どもたち(下)



鳥海山木のおもちゃ美術館のオープンに合わせて、木のおもちゃ列車「なかよしこよし号」を運行しています。この列車は、市が由利高原鉄道の1車両を改装したもので、内装には県産材を含むナラやスギなどがふんだんに使われ、秋田の曲げ木技術も取り入れられています。車内には「木のどんぐりプール」や子ども遊び場などが配置され、鳥海山を望めるパノラマ席もあります。

おもちゃ列車を利用してもらうため、羽後本荘駅近くの旧秋田銀行本荘駅前支店跡地には30台の無料駐車場を整備。また、美術館の最寄り駅である鮎川駅には、クラウドファンディングによる資金でおもちゃを備えた待合室などが設けられ、美術館までの接続にシャトルバスが運行されています。

「なかよしこよし号」は、東日本では初めてとなる、木材をふんだんに使用した木のぬくもりにあふれる列車です。多くの皆様のご利用をお待ちしています。

美術館のオープンにあたり、 多くの皆さんにボランティアで協力していただきました ありがとうございました！

○市塗装工業組合の皆さん

市塗装工業組合15人の皆さんが、地域の皆さんのお役に立てればと、美術館の外壁や窓枠などの塗装をきれいに塗り替えてくださいました。(6月13日)



○由利地域と学芸員の皆さん

地元由利地域とおもちゃ学芸員の約90人の皆さんが、駐車場と旧グラウンド周辺の草刈り作業や美術館周辺の草むしり、館内清掃などを行ってくださいました。(6月17日)



○ゆり支援学校の皆さん

ゆり支援学校高等部の生徒や職員、PTAの皆さん16人が、地域との交流活動の一環として、敷地内の花壇にマリーゴールドやダリアなど120株の花を植栽してくださいました。(6月22日)



インタビュー



須田大翔君(8歳・前郷)、
蓮翔君(6歳)

キラキラのトロピカルドームを作る工作ができてとても楽しかったです。おもちゃもたくさんあって、ドミノみたいなおもちゃと木のどんぐりプールが特に気に入りました。もっともっと遊びたいです。



泉祐樹さん(45歳・秋田市)、
由佳さん(41歳)、奈々ちゃん
(6歳)、英奈ちゃん(3歳)

テレビCMで知って、おもちゃ列車に乗って来ました。子どもたちは列車の中で遊べて、さらに小さなプレゼントをもらったことがうれしかったです。美術館内でも、すべり台や木のどんぐりプールなどが気に入って繰り返し遊びました。今度は平日や夏休みにも来てみたいです。



渡邊直太郎さん(31歳・中堅町)、
彩さん(29歳)、舞子ちゃん(9カ月)

ハイハイひろばには9カ月の娘でもつかみやすいおもちゃがあるし、木でできているので安心して遊ばせることができます。美術館に来るまではおしゃべりなおもちゃ列車に乗って楽しめるし、これからも来たいです。



おもちゃ学芸員
菅原紀子さん
(53歳・大鋸町)

木育キャラバンの手伝いをして楽しかったのでおもちゃ学芸員になりました。自分の子育ては終わってしまったけど、こうして子どもたちと関わることができてうれしいです。このおもちゃ美術館は子どもだけではなく大人も楽しめる場所。1日では楽しきれないくらいいろいろな魅力が詰まっているので、何度も来てもらいたいです。今日のにぎわいが続いてくれたらと願っています。